

## 「世界の中の日本美術—過去から未来へ—」 の開催のあたって

伊藤真実子

平成 28 (2016) 年 7 月 29 日、東京お台場にある東京国際交流館・プラザ平成の国際交流会議場にて、国際シンポジウム「世界の中の日本美術—過去から未来へ—」が、独立行政法人日本学生支援機構、が主催、文部科学省、外務省の後援、東京美術倶楽部の協力のもと開催された。

この国際シンポジウムの企画は学習院大学佐野みどり教授のもとすすめられ、国際研究教育機構が協力しておこなわれた。当日は、基調講演として、セインズベリー日本藝術研究所統括役所長、水鳥真美による基調講演「国際社会における文化交流活動は必要だと思いますか?」、学習院大学国際研究教育機構客員研究員彬子女王による「伝統文化の継承—心游舎の活動を通して」、パネルディスカッション「世界のまなざし」では、司会にマサコ・ワタナベ (元メトロポリタン美術館日本ギャラリー主任学芸員)、パネリストとしてフランク・フェルテンズ (フリア美術館)、レイチェル・サンダース (ハーバード大学美術館)、エヴァ・マホトカ (ライデン大学准教授) を迎え、ディスカッサントとして、カタリーナ・ローデ (ハイデルベルク大学)、胡智敏 (学習院大学)、パバウィー・ナンタラジト (東京海洋大学)、渡辺証 (東京海洋大学) が加わり、日本美術研究の諸外国における現状と課題などが討論された。

また、当日は、ロビーや別室において「ワークショップ：伝統文化を楽しむ 座敷飾りと茶室、王朝装束」も開催された。ロビーには茶室がしつらえられ、学習院大学荒川正明教授による説明のもと、来場者は茶の湯を楽しむことができた。また本物の座敷飾りの道具がしつらえられた別室では、学習院大学島尾明教授による書院などの空間の説明と、用いられる道具の説明が行われた。国際交流会議場では、田中有職研究所の田中潤氏による王朝装束の解説のもと、王朝装束の着付けの実演がおこなわれた。

いずれの会場でも、多くの方のご協力により、普段は美術館、博物館の展示ブースの中で見られない貴重なものを使って実演がなされており、かつ多くの来場者方々が気兼ねな

く日本文化を楽しむことができるような工夫と配慮がなされてたため、多くのかたが日本美術を楽しむことができたように思う。

本号には、当日おこなわれた、水鳥真美による基調講演「国際社会における文化交流活動は必要だと思いますか?」、学習院大学国際研究教育機構客員研究員彬子女王による「伝統文化の継承—心游舎の活動を通して」を掲載する。

紙幅の都合上、パネルディスカッションについては、掲載をみおくることとする。

(いとう まみこ 学習院大学国際研究教育機構准教授)